

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 令和3年2月12日

【四半期会計期間】 第52期第2四半期(自 令和2年10月1日 至 令和2年12月31日)

【会社名】 株式会社 環境管理センター

【英訳名】 ENVIRONMENTAL CONTROL CENTER CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 水落 憲吾

【本店の所在の場所】 東京都八王子市散田町三丁目7番23号

【電話番号】 042(673)0500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長 浜島 直人

【最寄りの連絡場所】 東京都八王子市散田町三丁目7番23号

【電話番号】 042(673)0500(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員管理本部長 浜島 直人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第51期 第2四半期 連結累計期間	第52期 第2四半期 連結累計期間	第51期
会計期間	自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日	自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日	自 令和元年7月1日 至 令和2年6月30日
売上高 (千円)	1,561,283	1,654,735	4,261,356
経常利益又は経常損失() (千円)	61,279	11,948	200,015
親会社株主に帰属する当期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (千円)	101,661	41,923	152,667
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	99,685	37,979	152,591
純資産額 (千円)	1,600,994	1,791,902	1,853,271
総資産額 (千円)	4,747,331	4,853,280	4,526,955
1株当たり当期純利益又は1株当たり四半期純損失() (円)	21.73	8.96	32.64
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	32.16
自己資本比率 (%)	32.0	35.2	39.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	357,978	186,007	380,636
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	29,542	66,658	235,558
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	478,474	261,361	108,352
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	414,614	368,873	360,127

回次	第51期 第2四半期 連結会計期間	第52期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 令和元年10月1日 至 令和元年12月31日	自 令和2年10月1日 至 令和2年12月31日
1株当たり四半期純利益(損失) (円)	15.21	1.88

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には消費税等は含まれておりません。
3. 第51期第2四半期連結累計期間及び第52期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があるとして認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

なお、当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間の国内経済を概観すると、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあります。先行きについては、感染拡大の防止策を講じるなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって持ち直しの動きが続くことが期待されますが、国内外の感染拡大による下振れリスクの高まりに十分注意する必要があります。

世界経済についても、感染症の世界的大流行の影響により、依然として厳しい状況にあります。経済活動が進められるなかで持ち直しの動きが続くことが期待されます。

環境関連の動向としては、海洋プラスチックごみ問題に関連する海洋生分解性プラスチックの技術開発等、プラスチックごみ対策のあるべき方向性への課題が生じております。

このような状況の中、当社は国のさまざまな政策案件に係る調査やコンサルティングに対応する組織体制を整え、長年培ってきた技術を活かし、新たなニーズにも着実に応え、お客様のご多様な課題に総合的に対応しております。

当第2四半期連結累計期間は、好調な受注を背景に売上高は前年に比べ増加し、第3四半期以降に売上が計上される案件の仕掛品も増加したことにより前年同期に比べ収益は改善しました。

当第2四半期連結累計期間の受注高は24億3百万円（前年同期比1億94百万円増、同8.8%増）であります。分野別の受注高は、環境調査13億50百万円（同2億38百万円増、同21.5%増）、コンサルタント5億72百万円（同1億5百万円増、同22.7%増）、応用測定4億57百万円（同1億2百万円減、同18.4%減）、放射能22百万円（同46百万円減、同67.0%減）であります。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、16億54百万円（同93百万円増、同6.0%増）となりました。当第2四半期の受注残高は24億44百万円（同2億49百万円増、同11.4%増）であります。

損益面については、売上原価は12億4百万円（同23百万円増、同2.0%増）、販売費及び一般管理費は4億36百万円（同0百万円増、同0.1%増）となりました。その結果、営業利益は13百万円（前年同期は55百万円の営業損失）、経常利益は11百万円（同61百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純損失は41百万円（同1億1百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

（季節変動について）

当社及び子会社が属する環境計量証明事業の受注案件は、3月末までを契約期間とする調査業務が多く、年間売上高のおよそ3分の1が3月に計上されます。また人件費・営業経費等の固定費は毎月ほぼ均等に発生するため、第2四半期までは営業損失が生じる季節変動の特徴があります。

- 受注高・売上高の四半期推移 -

		第1四半期 連結累計期間 (7～9月)	第2四半期 連結累計期間 (7～12月)	第3四半期 連結累計期間 (7～3月)	通期 (7～6月)
受注高	当四半期連結累計 期間 (百万円)	1,258	2,403		
(参考)	前年同四半期 (百万円)	1,216	2,208	3,186	4,409
	年間進捗率 (%)	27.6	50.1	72.3	100.0
売上高	当四半期連結累計 期間 (百万円)	793	1,654		
(参考)	前年同四半期 (百万円)	879	1,561	3,460	4,261
	年間進捗率 (%)	20.6	36.6	81.2	100.0

財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は48億53百万円（前期末比3億26百万円増）になりました。

流動資産は18億24百万円（同3億94百万円増）、固定資産は30億27百万円（同67百万円減）、繰延資産は1百万円（同0百万円減）となりました。流動資産増減の主な要因は、仕掛品の増加4億98百万円、受取手形及び売掛金の減少1億13百万円等であります。

負債は30億61百万円（同3億87百万円増）となりました。増減の主な要因は、短期借入金の借入3億50百万円、前受金の増加1億71百万円、未払費用の減少75百万円、長期借入金の返済53百万円等であります。

純資産は17億91百万円（同61百万円減）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失41百万円、配当金の支払23百万円等であります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における資金は、前期末に比べて8百万円増加し、3億68百万円になりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

営業活動による資金の動きは、1億86百万円支出（前年同期間は3億57百万円）となりました。これは、主に、たな卸資産の増加による支出4億92百万円（同3億86百万円）、前受金の増加1億71百万円（同3百万円）、減価償却費1億20百万円（同1億23百万円）等によるものです。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

投資活動による資金の動きは、66百万円支出（同29百万円）となりました。主に、有形固定資産取得による支出60百万円（同15百万円）等によるものです。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

財務活動による資金の動きは、2億61百万円収入（同4億78百万円）となりました。主に、運転資金を使途とする短期借入金の借入（純額）3億50百万円（同5億50百万円）、約定返済による長期借入金の返済による支出53百万円（同53百万円）、配当金の支払23百万円（同0百万円）等によるものです。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社の事業は、受託した調査を4月に着手して3月に完了する契約が多く、3月末時の売掛金残高は年間売上高のおよそ3分の1になる傾向があります。それにより4～5月の売掛金回収までの間、毎月平均的に発生する人件費・外注委託費等の営業費用の支払を目的とする資金需要が生じます。

当社の資金計画は、現金及び預金の月末残高が各月の資金需要の1～1.5ヶ月相当を目安としており、安定した財務流動性を維持するため、取引銀行3行と総額15億円のコミットメントライン契約を締結しております。

設備投資目的の資金は、分析測定機器等、経常的な更新の場合には手元資金またはリース契約に依っており、土地建物等の取得や高額な設備を導入する場合には長期資金を調達することを基本としております。

(5) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はあ

りません。

(6) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。
また、前事業年度に掲げた課題については、当第2四半期連結累計期間も引き続き取り組んでおります。

(7) 研究開発活動

該当事項はありません。

(8) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

(9) 生産、受注及び販売の状況

当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。

生産・受注及び販売状況

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
生産状況(製造原価)	1,572,264	1,705,159
受注状況(販売価格)	2,208,555	2,403,527
販売状況(売上高)	1,561,283	1,654,735

なお、分野別の受注高及び受注残高・売上高はつぎのとおりです。

分野別受注高及び受注残高

分 野	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)	
	受注高(千円)	受注残高 (千円)	受注高(千円)	受注残高 (千円)
環境調査	1,111,581	813,275	1,350,298	1,054,036
コンサルタント	466,981	1,046,462	572,764	1,156,738
応用測定	560,401	297,046	457,517	218,239
放射能	69,592	38,337	22,946	15,290
合計	2,208,555	2,195,123	2,403,527	2,444,304
官公庁	504,996	784,777	541,891	923,649
民間	1,703,559	1,410,346	1,861,635	1,520,655

(注) 金額は販売価格によっており、消費税等は含まれておりません。

分野別売上高

分 野	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)		当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)	
	金額(千円)	構成比(%)	金額(千円)	構成比(%)
環境調査	893,235	57.2	1,023,225	61.8
コンサルタント	173,667	11.1	184,900	11.2
応用測定	414,177	26.5	433,001	26.2
放射能	80,204	5.2	13,607	0.8
合計	1,561,283	100.0	1,654,735	100.0
官公庁	297,407	19.0	291,300	17.6
民間	1,263,876	81.0	1,363,434	82.4

(注) 販売数量については、同一分野のなかでも種類が多く、かつ仕様も多岐にわたるため記載を省略しております。

(10) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、当社の主要な設備に著しい変動はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	15,000,000
計	15,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (令和2年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (令和3年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,678,270	4,678,270	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,678,270	4,678,270		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
令和2年10月1日～ 令和2年12月31日		4,678,270		858,442		807,106

(5) 【大株主の状況】

令和2年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合(%)
水落 憲吾	東京都小平市	505,390	10.8
株式会社フィールド・パートナーズ	東京都港区虎ノ門1-2-8	470,000	10.0
環境管理センター従業員持株会	東京都八王子市散田町3-7-23	346,600	7.4
水落 阿岐子	東京都小平市	182,700	3.9
株式会社みずほ銀行(常任代理人 株式会社日本カस्टディ銀行)	東京都千代田区大手町1-5-5 (東京都中央区晴海1-8-12)	130,000	2.8
片柳 健一	東京都杉並区	120,800	2.6
明治安田生命保険相互会社(常任代理人 株式会社日本カस्टディ銀行)	東京都千代田区丸の内2-1-1 (東京都中央区晴海1-8-12)	100,000	2.1
多摩信用金庫	東京都立川市緑町3-4	90,000	1.9
下河内 一雄	長崎県諫早市	55,500	1.2
佐藤 美知雄	千葉県市川市	48,600	1.0
計		2,049,590	43.8

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

令和2年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 400		
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,676,100	46,761	
単元未満株式(注)	普通株式 1,770		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,678,270		
総株主の議決権		46,761	

(注) 「単元未満株式」欄には、当社名義の株式が52株含まれております。

【自己株式等】

令和2年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社環境管理センター	東京都八王子市散田町3-7-23	400	-	400	0.01
計		400	-	400	0.01

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(令和2年10月1日から令和2年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(令和2年7月1日から令和2年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和2年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	360,127	368,873
受取手形及び売掛金	636,995	2 523,241
商品	6,987	1,280
仕掛品	361,377	859,563
貯蔵品	8,594	8,168
前払費用	46,457	36,695
その他	10,240	27,052
貸倒引当金	383	314
流動資産合計	1,430,397	1,824,560
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,222,150	1,215,913
機械装置及び運搬具(純額)	305,422	294,905
土地	1,107,645	1,107,645
リース資産(純額)	22,742	23,342
建設仮勘定	20,974	16,682
その他(純額)	45,182	49,453
有形固定資産合計	2,724,117	2,707,942
無形固定資産		
ソフトウェア	41,380	35,552
その他	6,180	6,122
無形固定資産合計	47,560	41,675
投資その他の資産		
投資有価証券	42,923	45,424
関係会社出資金	14,686	15,084
長期貸付金	430	235
繰延税金資産	62,265	24,438
差入保証金	61,969	59,466
その他	173,043	173,613
貸倒引当金	32,094	40,534
投資その他の資産合計	323,223	277,728
固定資産合計	3,094,901	3,027,347
繰延資産		
創立費	239	198
開業費	1,416	1,173
繰延資産合計	1,656	1,372
資産合計	4,526,955	4,853,280

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和2年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	70,647	109,912
短期借入金	¹ 600,000	¹ 950,000
1年内返済予定の長期借入金	107,044	107,044
リース債務	17,625	15,195
未払金	72,335	107,115
未払費用	164,427	89,282
未払法人税等	40,305	23,451
前受金	81,210	252,257
受注損失引当金	3,835	1,646
その他	97,332	43,322
流動負債合計	1,254,763	1,699,227
固定負債		
長期借入金	872,958	819,436
リース債務	7,751	10,612
役員退職慰労引当金	4,082	4,082
退職給付に係る負債	530,394	524,274
資産除去債務	3,734	3,745
固定負債合計	1,418,920	1,362,150
負債合計	2,673,684	3,061,378
純資産の部		
株主資本		
資本金	858,442	858,442
資本剰余金	807,357	807,357
利益剰余金	112,436	47,123
自己株式	159	159
株主資本合計	1,778,076	1,712,763
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,634	634
為替換算調整勘定	3,278	3,302
その他の包括利益累計額合計	4,913	2,668
新株予約権	28,140	28,140
非支配株主持分	51,968	53,666
純資産合計	1,853,271	1,791,902
負債純資産合計	4,526,955	4,853,280

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
売上高	1,561,283	1,654,735
売上原価	1,180,649	1,204,225
売上総利益	380,633	450,509
販売費及び一般管理費	1 436,405	1 436,988
営業利益又は営業損失()	55,771	13,521
営業外収益		
受取利息	668	399
受取配当金	539	531
受取手数料	976	1,274
受取保険金	1,938	-
持分法による投資利益	-	33
その他	3,054	3,213
営業外収益合計	7,176	5,452
営業外費用		
支払利息	7,037	5,444
持分法による投資損失	3,113	-
その他	2,534	1,580
営業外費用合計	12,685	7,025
経常利益又は経常損失()	61,279	11,948
特別利益		
固定資産売却益	-	4
特別利益合計	-	4
特別損失		
固定資産売却損	-	203
特別損失合計	-	203
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	61,279	11,749
法人税、住民税及び事業税	8,886	13,962
法人税等調整額	31,124	37,639
法人税等合計	40,010	51,601
四半期純損失()	101,290	39,851
非支配株主に帰属する四半期純利益	370	2,071
親会社株主に帰属する四半期純損失()	101,661	41,923

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自令和元年7月1日 至令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自令和2年7月1日 至令和2年12月31日)
四半期純損失()	101,290	39,851
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	616	2,269
為替換算調整勘定	888	762
持分法適用会社に対する持分相当額	101	364
その他の包括利益合計	1,605	1,871
四半期包括利益	99,685	37,979
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	100,491	39,678
非支配株主に係る四半期包括利益	805	1,698

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	61,279	11,749
減価償却費	123,208	120,800
貸倒引当金の増減額(は減少)	7,420	8,371
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	7,999	6,120
受注損失引当金の増減額(は減少)	5,351	2,189
受取利息及び受取配当金	1,207	931
受取保険金	1,938	-
支払利息	7,037	5,444
支払手数料	829	872
有形固定資産売却損益(は益)	-	198
売上債権の増減額(は増加)	101,127	115,389
たな卸資産の増減額(は増加)	386,055	492,083
仕入債務の増減額(は減少)	4,197	48,122
前受金の増減額(は減少)	3,928	171,046
その他の流動資産の増減額(は増加)	7,152	8,499
その他の負債の増減額(は減少)	62,834	48,517
持分法による投資損益(は益)	3,113	33
その他	28,810	77,379
小計	295,769	153,757
利息及び配当金の受取額	1,244	945
保険金の受取額	1,938	-
利息の支払額	7,037	5,387
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	59,326	27,808
その他	971	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	357,978	186,007
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	15,286	60,423
有形固定資産の売却による収入	-	2,042
無形固定資産の取得による支出	1,200	3,955
投資有価証券の取得による支出	941	943
その他	12,114	3,378
投資活動によるキャッシュ・フロー	29,542	66,658
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	550,000	350,000
長期借入金の返済による支出	53,866	53,854
リース債務の返済による支出	17,645	11,551
配当金の支払額	13	23,232
財務活動によるキャッシュ・フロー	478,474	261,361
現金及び現金同等物に係る換算差額	259	51
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	91,213	8,746
現金及び現金同等物の期首残高	323,401	360,127
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 414,614	1 368,873

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積りについて)に記載した新型コロナウイルス感染症の収束時期等を含む仮定及び会計上の見積りについて重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行3行とコミットメントライン契約を締結しております。これら契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (令和2年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
コミットメントラインの総額	1,500,000千円	1,500,000千円
借入実行残高	600,000	950,000
差引額	900,000	550,000

なお、当該コミットメントライン契約について、下記のとおり財務制限条項が付されております。

各年度の決算期の末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を令和元年6月決算期末日における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額の75%以上に維持すること。

令和2年6月期決算以降の決算期を初回の決算期とする連続する2期について、各年度の決算期における連結の損益計算書に示される経常損益が2期連続して損失とならないようにすること。

- 2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第2四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (令和2年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
受取手形	千円	1,078千円

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
役員報酬	47,150千円	59,063千円
給料及び手当	161,811	164,065
福利厚生費	33,892	36,855
退職給付費用	9,565	10,487

- 2 当社及び子会社の売上高は3月末までを契約期間とする受託業務が多いため、各四半期連結会計期間の業績には季節変動が生じております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
現金及び預金勘定	414,614千円	368,873千円
現金及び現金同等物	414,614	368,873

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和2年9月29日 定時株主総会	普通株式	23,389	5.00	令和2年6月30日	令和2年9月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社及び子会社の事業は、環境計量証明事業並びにこれら関連業務を単一の報告セグメントとしており、その他の事業については、重要性が乏しいことから記載を省略しております。また、地域別のセグメントにつきましても重要性が乏しいことから記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 令和元年7月1日 至 令和元年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 令和2年7月1日 至 令和2年12月31日)
1株当たり四半期純損失	21円73銭	8円96銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失(千円)	101,661	41,923
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失(千円)	101,661	41,923
普通株式の期中平均株式数(株)	4,677,818	4,677,818
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式 で、前連結会計年度末から重要な変動があったもの の概要		

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失のため、記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和3年2月12日

株式会社環境管理センター
取締役会 御中

E Y 新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 跡 部 尚 志 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 鹿 島 寿 郎 印
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社環境管理センターの令和2年7月1日から令和3年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（令和2年10月1日から令和2年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（令和2年7月1日から令和2年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社環境管理センター及び連結子会社の令和2年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書

において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。